

第2回 川辺川の流水型ダムに係る環境保全対策 アドバイザー会議

説明資料 【前回会議のご助言と対応等について(概要)】

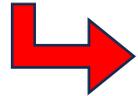
令和8年2月20日



国土交通省 九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所

＜モニタリング調査計画(案)に関する主なご助言＞

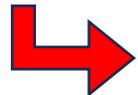
- シルト成分の堆積の調査については、ダム供用前も実施することが必要。また、調査地点もダム上流側も必要。
- 河道の土砂堆積に関しては、環境ベースマップを活用することが非常に有用なため、支川も含めて精度を上げてもらえると良い。また、ダム下流の河床変動が大事なので、県区間と国区間でのデータ密度の整合が図れると良い。
- ヤマセミ、カワセミ、カワガラスの調査頻度について、生態系の食物網の中でどのような変化が起きているのかを検出できるような調査ができると良い。



参考資料1「モニタリング調査計画(案)」を更新。

＜今後の調査・検討等にあたって留意すべき点に関する主なご助言＞

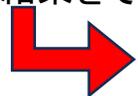
- 両生類の移植について、移植先の環境条件や繁殖期の個体を採捕して移植した場合に移植先で繁殖するのかなどの詳細な計画を事前に十分考えておくことが必要。
- 植物移植について、移植しても食害を受けて消失しないようシカ柵の設置等の検討も必要。また、一時的に植物園等の施設に避難させる等の方法も検討してほしい。
- ダム下流の生態系にプラスになるようなベストなダム放流方法を検討してほしい。
- 支川は河川の連続性や湛水時の避難場になるので重要。支川も含めて河川の再生を目指してほしい。
- 上下流のつながりだけでなく、水域から陸域、陸域から水域のつながりを創出できるような場所を複数設けるとよい。
- この会議を継続することは重要であり、検討や議論の内容をアーカイブとして保存してほしい。
- 景観検討にあたっては、ダムの工事のマップなど、事業全体を踏まえ議論できると良い。



いただいたご助言を踏まえ、今後の調査・検討等に反映。

＜生態系のあらたな調査・分析に関する主なご助言＞

- これまでの環境影響評価の手法では、生態系や多様性の観点が抜けていると感じており、川辺川でのこれまでの検討結果をそれらの精度向上に活用できるのではないかと併せて、瀬淵などの河道としての評価も必要。



資料2-2「生態系のあらたな調査・分析の試行」を整理。